



東京部会(第100回)

日時:	2018年5月28日(月) 19:30-21:30
場所:	慶応義塾大学三田キャンパス研究棟 446号会議室
参加者:	[順不同・敬称略] 篠原聡一(京都学園大学)、加藤一誠(慶応義塾大学)、鈴木深(東京証券取引所)、岡部ちはる(東京証券取引所)、杉田孝之(千葉県立津田沼高校)、杉浦光紀(都立井草高校)、塙枝里子(都立府中東高校)、藤巻朗(目黒学院中・高)、山田勝之(足立区立第四中学校)、金子幹夫(神奈川県立三浦初声高校)、中沖栄(清水書院)、鈴木孝治(日本経済教育センター)、長澤大介(読売新聞)、新井明(上智大学非常勤講師)、以上14名。

(1)「夏休み経済教室」に関する報告が行われた。

鈴木深氏と岡部ちはる氏より、チラシの紹介および現在の取り組み状況の説明があった。

6月1日に東証のホームページにアップして参加募集を開始する。同時に、チラシや案内を全国の学校に送付するという手順である。また、講演講師、実践提案者の資料の締め切りは7月13日(金)とすることが報告された。なお、昨年同様に中学公民、高校「現代社会」「政治・経済」の教科書を見本として展示することになった。

次いで、新井より、東京部会関係のプログラム内容の準備、検討状況が紹介された。あわせて、東京部会有志メンバーによる準備、札幌部会での準備状況などが報告された。

2 実践報告・教材提案関係

(1)参加者からの報告

a)杉田、金子先生の授業づくりの紹介と検討

杉田孝之先生(千葉県立津田沼高校)と金子幹夫先生(神奈川県立三浦初声高校)より、東京部会有志メンバーによる検討を踏まえた「夏休み経済教室(東京高校)」での発表ストーリー案が紹介された。

プロットは以下の通りである。

第1章 二人の公民科教師(登場人物の紹介)

第2章 二人の教師の問題意識と結論(概念を先行させる方式、教室にミニ社会をつくり生徒を動かす方式)

第3章 教師Sがつくった有権者教育の教材(教材内容の紹介)

第4章 教師Kがつくった有権者教育の教材(同)

第5章 教師Kの舞台裏(教材づくりまでの仕込みの様子)

第6章 教師Sの舞台裏(同)

第7章 振り返りそして質疑応答

このストーリーは、前回部会で問われた、なぜ二人が登場するのか、その意味があるのかという問いと、紹介する教材が多すぎではないかという問いに対する回答をめざしたものととの補足があった。

検討では、有権者教育という教材は、経済教室という枠では違和感があるが大丈夫かという質問があったが、参加者から、主権者教育で経済教育が貢献できるのは政策選択ができる生徒をつくることという意味からみて、これで十分ではという意見がでた。また、政治的な選択でも必ず財政支出、お金が絡むので問題はないという意見もでて、報告通りにゆくことが了解された。

b)杉田・山崎先生の授業づくりの検討

同じく「夏休み経済教室(名古屋)」で発表が予定されている、杉田先生と山崎先生(北海道北見北斗高校)の内容が、杉田先生から報告された。



基本的な流れは、金子・杉田と同じである。違うのは、授業案で、山崎先生はJR北海道の路線廃止問題、杉田先生は子どもの貧困である。

検討では、JR北海道の路線廃止を費用便益分析でどう捉えるかが問題になった。また、廃止か存続かという問いの立て方に対してもそれでよいかという疑問が提示された。幸福・正義・公正という概念がなぜここで使われるのかという質問もでた。検討の結果、民間会社になったJRの路線存続の意味や背景など踏まえて、代替手段の検討まで視野にいれた教材にする必要があるのではということ、さらに改良を加えることになった。

c) 河原・杉田先生提案の検討

「夏休み経済教室(東京中学)」で発表が予定されている、河原和之先生による「ウソッ！ホント授業の作り方ー日常の話題から“経済概念”を素材としてー」のプロット構想が杉田先生から報告された。

プロットは、冒頭授業の達人河原先生に弟子入りしたい若い先生を杉田先生が演じ、そのあと河原先生による授業内容、ネタの紹介があり、それを踏まえて、杉田先生が河原先生に質問を繰り返して、河原授業づくりの秘密に迫るという流れである。

検討の結果、新しくユニークな試みになるのではということ、今後、担当者同士情報を交換し合いながら作り上げるということ、で了解された。

d) 塙先生発表の検討

塙枝里子先生(都立府中東高校)から「夏休み経済教室(大阪)」で発表が予定されている「エコノミストとつくった三つの授業」の内容紹介があった。

これは加藤一誠先生(慶應義塾大学)とコラボで作り、実践を行った、時間、交換、公共の経済学の三つの授業を紹介するものである。発表では、そのうち時間の経済学を中心に、授業づくりの問題意識、方法、授業デザインなどを紹介しながら、授業づくりの舞台裏を紹介するという流れの発表になることが報告され、了解された。

関連して、加藤先生が講師で出講している大学での時間割引率の学生向けの課題のプリントが紹介された。

e) その他の報告

・加藤先生から、「夏の経済教室(東京中学)」で報告が予定されている、中山義基先生(京都府立園部高校・中学)の「エコノミストと経済の授業をつくる<働くことの意味ー「働き方改革」を考えるー>」に関する報告があった。

授業の内容は「働き方改革」のなかの高齢者も働ける社会をつくることに注目させる内容であるが、授業プリントのタイトル「君はなぜはたらくの？」と授業内容のギャップがあるのではないかと、データのグラフの内容、作り方などにさらに工夫が必要ではないかなどの質問がでて、今後大阪部会などでさらに検討を加えて欲しいとの要望で了解された。

・山田勝之先生(足立区立第四中学校)から、「夏の経済教室」で発表予定の内容の進捗状況の説明があった。証券知識普及プロジェクトが作成した「ミスターXからの挑戦状」という教材を配布すること、生徒のレポートなどを適宜紹介することが報告された。

・新井から、歴史シリーズで予定されている、篠原代表の講義「明治維新を経済からよむ」に関して、講義内容に関する内容のメモが紹介された。

3 今回の東京部会

100回を迎えた今回の部会では、「夏休み経済教室」に関連する事項の検討、授業提案の検討を中心に多くの報告と討議が行われた。経済教室のようなイベントを一過性のものとするのではなく、日常の研究活動とリンクして



内容を広く、深いものにしてゆくプロセスが見える部会となったといえよう。

なお、12月に予定、計画されている「冬休みの経済教室」に関して、実施の可否も含めてテーマや内容の設定を早めにしっかり取り組んで欲しいとの要望が出された。

(記録と文責:新井)

次回の開催予定、6月27日(水)19:00～21:00。会場は慶応義塾大学三田キャンパス研究棟446会議室。